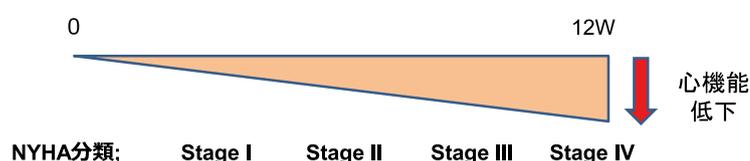


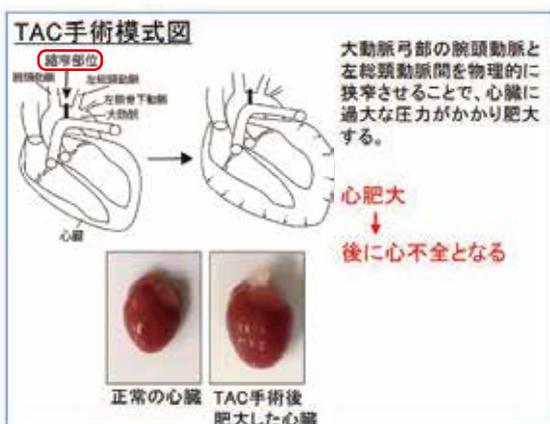
テーマ:大動脈弓縮窄(TAC)誘発心不全モデルマウス

■ 背景

心不全は、高血圧症や虚血性心疾患、心筋症などの様々な原因によって心臓のポンプ機能(心筋の収縮力や拡張力)が低下して、体に十分な血液を送り出せなくなった状態である。医学の進歩にも関わらず、重度の心不全患者の5年生存率は約50~60%と低く、依然として非常に予後不良の疾患である。心不全終末期では、心筋細胞の線維化が進み、心臓の機能不全に陥る。心不全治療薬開発には様々な動物モデルが用いられ、マウスTACモデルは収縮不全型心不全を反映したモデルとして有用であり、数多くの医薬候補品の非臨床試験として用いられてきた。



約3か月かけてゆっくり心不全が進行し、高血圧性心疾患(心不全)などヒトの病態と類似した心機能低下や病理像を呈する。



■ 試験計画

使用動物; C57BL/6マウス(ご要望に添うことは可能)
 評価項目; 心エコーによる心機能(収縮能及び拡張能)評価、
 血圧・脈拍など(加えてご要望に柔軟に対応可能)
 病理検査; 安楽死後、病理標本作成・解析
 血液検査; 経時的に採血し、ご要望に応じて検査可能。また血漿送付も可能

- 薬物投与時期を変えることで、薬剤の予防効果/治療効果ともに評価可能
- 陽性対象化合物のデータも開示可能

■ CROに対する強み

国内にはTAC評価を受託するCROが存在するが、生化学・分子生物学講座分子病態生化学部門は以下の強みを持つ。

- 手技に長けた熟練研究員が試験を担当・実施するため、信頼性ある結果を提供可能。
- もし作用機序を開示いただければ結果の考察(例えば、その結果がon-target作用/off-target作用かなど)が可能である他、次に実施すべき試験など非臨床試験に関するコンサルテーションが可能。
- また、BM探索や附属病院と連携して非臨床・臨床試験計画に関するご相談も承ります。
- サルを用いる心筋症モデルも確立しており、ヒトにより近い種での非臨床試験を実施することも可能。

■ 生化学・分子生物学講座分子病態生化学部門のホームページ

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqbioch2/>